

## 成果の説明書

(氏名) 永田 瞬	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>○講義</p> <p>オンライン講義に移行したことで、準備に時間を要した。前期は、teams を利用して、教科書指定に基づく課題提示型の講義を行った。学生が教科書をよく読んで課題に回答するという面で理解力が高まっている側面がみられた。反面、質疑応答などのフィードバックの方法に課題を残した。</p> <p>後期は、teams による課題提示型の講義形式を継続しつつ、3 回に 1 回程度 ZOOM のリアルタイム解説を加えた。受講者が事前に予習し、課題を回答し、リアルタイム講義にのぞむ。こうした学習の循環は、学生の学習意欲を高める点で一定の効果があったのではないかと推察される。対面講義に移行した際にも、日常的に課題提示と回収を行える、オンライン学習のメリットは活かしていきたい。</p> <p>○演習</p> <p>演習もオンライン講義に移行した。ZOOM によるリアルタイム講義を基本としたが、後期の途中から対面講義と遠隔講義のハイブリッド方式となった。講義に比べて、事前準備などは従前と同程度であったが、教室でのセッティングなど技術的な部分で時間を要した。また、オンライン参加を認める条件が十分になっていないなど課題も残した。</p> <p>12 月の合同ゼミ合宿は ZOOM 形式となった。また当初予定していた夏合宿もオンラインでの開催となった。</p> <p>○教科書準備</p> <p>経営労務論で利用していた教科書データが古くなったことから、出版社と協議をして新たなテキスト準備を行うこととなった。出版社とともに、テキストの企画、準備、打ち合わせを 2 回行った。全体の章構成や執筆者の確定などを行った。</p> <p>○地域科学研究所プロジェクト</p> <p>地域科学研究所の製造業プロジェクトが 3 年目となったので、調査研究のとりまとめを行った。当初予定していた最終年度の海外調査は中止となったが、11 月 21 日と 2 月 12 日に報告書の完成に向けたオンライン研究会を実施した。研究会には調査対象の企業関係者も参加し、実りある時間となった。</p> <p>○研究</p> <p>外国人技能実習生の基幹労働力化に関する論文を『高崎経済大学論集』63 巻 1 号(2020 年 7 月)に発表した。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・業績審査委員</li><li>・学生賞罰委員会</li><li>・職域代表</li><li>・地域科学研究所『産業研究』編集委員</li></ul>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

- ・ 繊維中小企業の人事管理に関する研究をまとめる。
- ・ 人事労務管理のテキストを準備する。
- ・ 課題提示型のオンライン講義の良い点を活かしつつ、対面講義を行う。
- ・ ゼミの組織としての目標を立てつつ、学生個人が協同できるような関係構築を目指す。またチームで対話・議論が可能な環境づくりを意識する。